

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス チル・リブ 西調布ルーム				作成日 2025年 5 月 15 日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9		外組、室内組で分けたりしている。	安全性確保の観点から、活動時のスペース配分は常に考えながら活動をしていく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	7		集団形成を取り込んでいる。2部の状況を作る。	子どもの状態に応じた職員配置を推進していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく 構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	2		障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切に行っていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7			更なる改善を継続的に行っていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7			認めているが、運用ルールの整備が必要。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7			更なる改善を継続的に行っていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7			職員全体会議にて周知していき、会前提案を募っていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7			職員全体会議にて意見の吸い上げを行っているが、より意見の言いやすい環境を作っていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7			実施出来ていない。今後の検討課題。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	7		支援の根幹、見直しが行われている。	職員の質の向上は今期の重点課題であり、推進中。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7			公開しているが、より分かりやすいものを目指していく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7			アセスメント手法に関しては、更なる改善が必要。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7			意見の吸い上げは行っているが十分でないとこころもあるので、実施方法等改善が必要。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	1		周知方法は改善の余地あり。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	1		標準化されたるツールの使用は不十分なところあり、インフォーマルなアセスメントが中心に行っている。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	1	本人支援 設定より大きく支援をしている。	本人支援に重点を置き、家族支援も可能な範囲で行っている。移行支援、地域支援が弱いのでそこを強化して行く必要あり。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7			行っているが、さらに幅広い意見を拾い上げることが必要。

	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		好きになる事を心掛けて寄り添っている。	しているが、仕組みとしてバリエーションを増やせるようにしていきたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7			実施している。個別と集団をより意識した支援を目指していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7			今日ミーティングを実施中。より良いやり方を今後も模索していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7			フィードバックミーティングを実施中。より良いやり方を今後も模索していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7			全体としてのフィードバックミーティング議事録と、個人個人のサービス提供記録を記録。フィードバック議事録にて支援の改善内容について記載し、全体周知を行う。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			子ども会議にて、各利用者の気になる点を抽出し、改善に繋げている。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	6			地域交流が少ないので、そこを増やして行きたい。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7			支援の根幹を今年より設定。この中には自己決定の要素が含まれているため、この部分を職員全体に周知する必要あり。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			現在、設定なし（セルフプランが多いため）。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			障害福祉課、子ども家庭センター、学校との連携を行っている。この部分は今後も積極的に連携していく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6			各学校によって差がある。今後はこちらから学校側へのアプローチをかけていく必要あり。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7			出来ていないが、現状その連携との連携の必然性は感じていない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6			今回始めて卒業生を出したが、ここは実施できていない。進め方等今後検討必要。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5			センターの研修等には参加し、連携を図る準備を進めている。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5			近くの公園で、地域の子どもと一緒に活動する機会を増やすようにしている。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	2		現在参画はなしが、機会あれば参加していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7			連絡帳やLINEにて共有している。今後も推進してく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6			保護者会が唯一の場所となっているが、別の機会にて実施していくことを検討していく必要がある。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			保護者会等で説明していく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			保護者からのモニタリングを行い、それを反映させている。

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7			実施している。より丁寧な説明をしていく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			実施している。保護者の相談には今後の真摯に向き合う。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	6			保護者会にて保護者同士の交流の場を設けているが、機会が少ないため他の機会も検討する必要がある。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			苦情が出る前に、保護者とは十分な信頼関係を構築していく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7			2ヶ月に一回のお便り、SNSでの活動内容の発しは実施中。継続していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			職員への徹底を常に図っていく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			利用児童に応じた対応をしている。保護者に対してのその保護者に応じた対応を今後も心がける。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	2		出来ていないところ。今後検討。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7			マニュアルは整備しているが、周知が十分ではない。周知方法について検討していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			計画は終了し、訓練等の実施に向けて検討中。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	1		実施している。保護者と服薬については情報共有を図っている。来所時のこどもの状況把握を継続し確認していく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7			アレルギー対応は現状無だが、今後実施がある場合は、医師の指示書に従っていく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			作成完了し、日々管理を実施。より良い体制作りを進めていく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5			第一に実施しなくてはいけない内容との認識のもと、保護者等への周知、連携を進めている。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7			ヒヤリハットに関しては、その都度記録し蓄積を行っている。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7			大切な部分のため、定期的な研修を実施。職員に取って風通しの良い環境づくりも進めている。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7			対象となる児童がいないため、今後対象者が出てきたところで対応していく。